

## 平成24年度木造建築技術先導事業 採択プロジェクト一覧

No.	補助種別	プロジェクト名称	建設地	提案者(建築主等)	講評
1	木造化	(仮称)音ノ葉グリーンカフェ新築工事	東京都文京区	音羽建物(株)グリーン事業本部	純木質耐火集成材(100%国産杉使用)を適用した国内初の事例となる、都心に建つ木造3階建ての店舗の計画。施工性、経済性等を考慮し、主要構造には木造耐火で実績の多い耐火認定木造軸組工法を採用し、耐火集成材は店舗内吹き抜け空間に独立柱、飛び梁として使用し、合理的に木質空間を創出している。純木質耐火集成材の構成は、無処理の荷重支持部分の外側に難燃処理した燃え止まり層、表面を無処理の化粧材とした3層構造となっている。都心部の主要道路に面する飲食店舗となることから波及効果は大きく、また、他の用途にも応用でき木造耐火建築物のプロタイプとして普及が見込まれる。
2	木造化	チャーム四條畷木造老人ホームプロジェクト	大阪府四條畷市	(個人)	業界初となる、一般流通材による構造躯体現しの準耐火建築物の計画。従来の燃えしろ設計ではなく、現しとする柱・梁を木材や金物で補強、もしくは躯体が露出する寸法を制限するなどして小断面による準耐火構造45分の性能を実現するものとなっている。柱は真壁外壁または真壁間仕切壁として認定取得、梁は天井内に隠れる部分を耐火被覆したものとなっている。一般流通材を用いることによりコストの削減とあわせて、プレカットなどの戸建て住宅の技術を中大規模建築へ活用できる利点があり、今後様々な用途への波及効果が見込まれる。
3	木造化	(株)日新倉庫棟計画	鳥取県境港市	(株)日新	工場の敷地内に建つ平屋の大規模倉庫で、LVLのつづり材を用いて30mを超えるロングスパンの無柱空間を実現する計画。LVLのつづり材は、厚さ75mmのLVL3枚を木ダボとつづりボルトにて緊結したものとなっている。一般部に加え、柱・梁接合部においても2次接着を不要とし木ダボと接合用ボルトを採用することによりローコスト化を図っている。構造用厚板合板のほか、小梁、間柱等の二次部材には国産材を活用している。今後、同様の手法を用いて倉庫のほか工場用途等への適用も考えられ、木造の新たな建築用途への展開が期待できる。
4	木造化	日吉材木店八王子複合高齢者住宅プロジェクト	東京都八王子市	(有)日吉材木店	都内初の耐火木造3階建てサービス付き高齢者向け住宅の計画。かつてより課題であった耐火構造外壁の軽量化に対応するものとして、2層構造の外張り断熱による軽量化・簡素化を実現する外壁構造を採用している。これは、「断熱性能は高いが燃えやすい断熱材」を「断熱性能は低いが燃えにくい断熱材」で押さえることで耐火性能と断熱性能を両立するものとなっている。また、薄型化によるコストダウンも図られている。耐火性能が要求される高齢者住宅等の木造化に向けて波及・普及効果が期待される。
5	木造化	赤羽の集合住宅プロジェクト	東京都北区	(個人)	防火地域において木造4階建ての店舗兼共同住宅を建設する計画。主体構造として高強度の木質接着複合パネルを用いた工法を採用することにより耐力壁を少なくすることができ、開放性とプランニングの自由度の高さを実現するものとなっている。また、パネルは工場生産品のため一定の品質確保と同時に工期短縮が図れるものとなっている。中層建築物において一般の設計者・施工者とハウスメーカーとが連携する新しい仕組みを提案するものでもあり、今後の普及が期待される。
6	木造化	特別養護老人ホーム 国見の里 計画	福島県伊達郡国見町	(個人)	延べ面積5,000㎡を超える大規模な特別養護老人ホームの計画。RC造の渡り廊下によって棟を分けることにより木造での建築を実現している。構造体に福島県産材および地元産材を積極的に採用するとともに、交流ホール等は燃えしろ設計による躯体の現しとしており、木材の利用促進が見込まれる計画となっている。床面積が大きく木材使用量も多くなるが、個室で構成されるユニット棟においては一般流通材である住宅用製材を用いることによりコスト削減を図っている。大規模木造建築の実現可能性を示す事例として波及効果が期待される。